

# 最新アカリダニ二年間対応

中部日本みつばちの会

20160220

望月 建彦

中部地区のニホンミツバチは、自然・飼育群のほとんどが、アカリダニに感染しています。

現状の最良策は、年間を通じてのL-メントール処理で、実施しないと間違いなく消滅します。

12～2月は、必ず巢門を狭く、重箱段数を減らし2月は送風器を使用するのがダニ感染を防ぐポイントです。

# アカリダニ駆除年間計画

中部地区でのアカリダニ駆除の重箱でのメントール使用例。

項目／月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
2015年名古屋の気温℃	9.0	10.1	13.9	19.9	24.1	27.2	30.8	32.8	28.6	22.8	17.0	11.6
巣箱内でのダニ増殖	多	多	多	少	少	少	-	-	少	少	多	多
	巣内は外気温度より5～10℃高く高湿度 最適な増殖温度 20～30℃、湿度 60～80%											
天板のメントール量(g)	10	10	10	5	5	5	5	-	5	5	10	10
下段メントールのピン止め量(g)	10	10	10	10	5	5	5	5	5	5	10	10
	ピン留め2カ所											
メントール送風機使用時期	送風機	送風機	(外気温が5℃以下の12月～2月期は送風機が必須で特に2月中は実施する)									送風機

## 【メントール使用の注意事項】

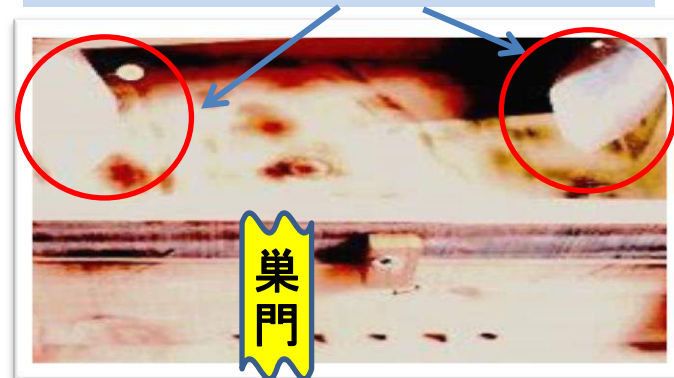
- \* 夏場は温度 43℃以上では瞬間的に気化し蜂が死ぬので巣門を開放し風通しを良く
- \* 新分蜂はメントールを蜂児部から20cmは放し5g以下でピン留めし慣らす。

# 重箱でのメントール使用法

基台で送風器使用



お茶袋  
巣箱内の側面にピン留め



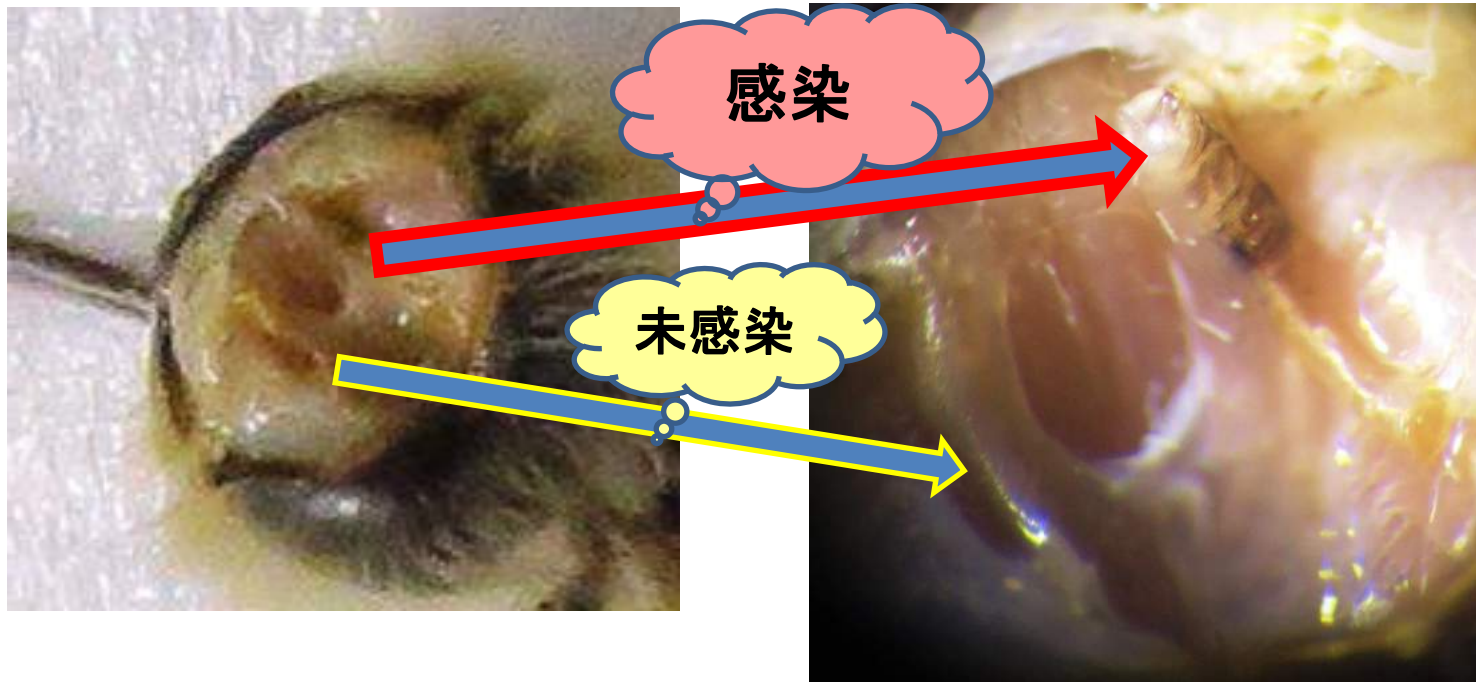
スノコ式天板に乗せる



メントールを外から入れる



# 当会で解剖したニホンミツバチ アカリダニに感染した写真（浜田 悦昌 撮影）



(これまでの検証からメントール使用上の注意事項)

- ・アカリダニは夏の高温期は増殖しにくいのでメントールは少なめにする。
- ・メントールは7月中旬～9月中旬以外はダニが増殖しやすいので必ず入れる。
- ・メントールの悪影響として巣内温度 43℃以上では瞬間的に気化し蜂が死ぬ。
- ・新分蜂群は少しずつメントールに慣らす(揮発しやすい時期は多く入れると子捨てが起こる)
- ・12～2月は巣門を狭く、重箱段数を減らし 2月は、送風器を使用する。

# アカリダニ症が増加しています！



出典：養蜂マニュアル

## アカリダニ症とは？

- ◆ホコリダニ科の一種。2010年に初めて確認された。現在は東北～九州まで分布が広がっている。(右下図)
- ◆蜂の気管内に寄生し体液を吸汁する。秋から冬にかけて増殖し、冬季から早春に症状が見られる。セイヨウミツバチでは寄生が確認されていない。



## 典型的な症状は？



出典：国立研究開発法人農業生物資源研究所

- ◆Kウイング  
後翅が閉じずに飛び出した状態。
- ◆徘徊  
アカリダニ寄生率が高くなり重症化すると、巣箱の周囲半径数メートルを飛翔できずに徘徊する働き蜂が増加する。

## 対策は？

### ◆メントール

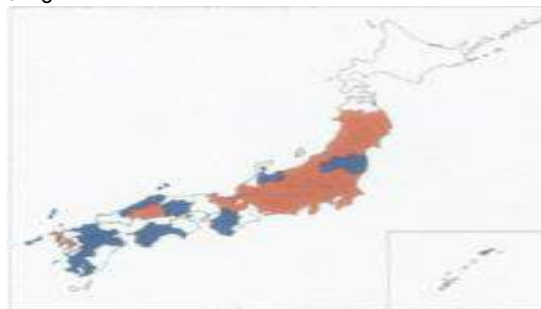
使用方法は3通りあります。

- ①お茶袋使用：巣箱側面にメントール5g前後入れピン留めする。
- ②スノコ式天板に乗せる。
- ③送風機使用：お茶袋等にメントールを冬は約30g(夏は約10g)入れ、送風機の中に容れて基台に設置する。

年中通して続けるとより有効ですが、におい移るため、採蜜4週間前～採蜜時期には投与をやめてください。

### ◆ショートニングパテ

ショートニング(食用油脂):砂糖=1:2で混ぜ巣枠の上に約110g置く。



赤：アカリダニ確認  
青：未確認  
白：未調査

出典：国立研究開発法人農業生物資源研究所

### ◆冬コロニー消滅

アカリダニ寄生率が高くなると多くの貯蜜を残したままコロニーが全滅する。

**左記の症状がみられた場合は、  
すぐに対策を行ってください。**

愛知県西部家畜保健衛生所尾張支所

TEL:0568-81-1874 FAX:0568-82-8475

# 届出伝染病と対策のまとめ

	アカリダニ	ノゼマ病	サックブルード
原因	気管支にダニが寄生	ノゼマ原虫が、成虫の消化管に寄生する。	ウイルス
検査	気管支を100～200倍顕微鏡で確認	ミツバチの腹部をすり潰し400倍顕微鏡で確認	感染蜂児の脂肪や筋肉組織に存在する。
症状	<ul style="list-style-type: none"><li>* 巣門外廻りタル糞</li><li>* 主に秋口～春に徘徊</li><li>* 下羽根異常(Kウイング).</li><li>* 巣温が低い</li><li>* 解剖で気管支が黒い</li><li>* 女王が短命か？</li></ul>	巣箱内外に働き蜂が下痢状の脱糞をする。成虫の腹部膨満、飛翔不能	蜂児捨て現象が始まる前蛹期に袋状になり、頭部側に水がたまった透明状態になる。
対策	年中巣内にメントール結晶を入れる。12～2月は巣門を狭く、重箱段数を減らし2月は送風器を使用する。	認可薬はない→寄生蜂群の除去、巣箱の清掃・交換が重要！	有効な治療薬はない。キトサンに見捨てハチ児を混ぜ沸騰しワクチンを作り投与。
注意点	全国で蔓延 夏場のメントール処理注意	簡易検査は腹部末端の針の部分ピンセットでつまみ、引き出し正常蜂と比較する。	